

# 人権だより

No.331 (2026.1)

## HIPHOPと黒人差別

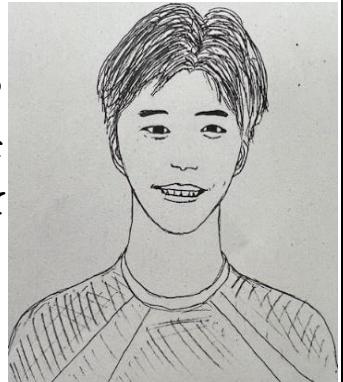
せいとか かわきた たいき  
生徒課 川北 大希

近頃のSNSを見ていると、音楽に合わせてダンスをする動画が多く見受けられる。この動画に使われている音楽のほとんどはHIPHOPが占めており、中学生や高校生にとって、HIPHOPが身近なものになりました。今回は、HIPHOPの歴史と黒人による人権獲得について書いていきたい。

人種差別は、1619年にイギリスがアフリカの黒人を奴隸として買収したことにより始まった。1863年にリンカーン大統領の奴隸解放令によって形式上の奴隸制の終わりを迎えたものの、依然として白人有利な社会体制から抜け出せずにいた。さらには、ジム・クロウ法という人種差別を合法化した法律により、今から約60年前まで黒人は法的に虐げられた。州によって違うものの、人種により使える学校や病院、トイレも決まっており、黒人が使えるものは汚かったり壊れたりしていた。

1955年に白人にバスの席を譲ることを拒否したことにより、ローザ・パークスさんが逮捕された事件をきっかけに、キング牧師の指揮のもと、平等な扱い、雇用や教育、住居など基本的な人権を求める公民権運動が始まった。そして、10年後の1965年にジョンソン大統領により、黒人が初めて法的に平等になったものの、今なおその面影が残り続いている。その頃のニューヨークは事業や工場が撤退したことにより、強盗や殺人が多発していた。特に、ニューヨークのブロンクスでは、火事が毎日起こるほど治安が悪く、ギャングの抗争やドラッグなどの影響によりどんどん人が亡くなっていた。このままではダメだということで、悪い方向ではなく良い方向に何かを進めることができないのかということでできたのが、HIPHOPである。これまで犯罪にエネルギーを発散していたものを、HIPHOPにエネルギーを注ぎ、黒人同士の争いや黒人が犯罪に手を染めず、差別の社会情勢に負けないようにと一致団結したのであった。このようにして、HIPHOPはドラッグによってしか稼ぐことができなかつたアメリカの黒人にとって、まともに稼ぐ方法として大きな影響を与えた。また曲に黒人差別の現実と差別撤廃についての想いを込めることにより、HIPHOPが世界に認知され、差別撤廃の運動にも繋がることとなる。

人権・同和教育ホームルーム活動の中で、同和教育の歴史について学ぶ。黒人差別の解消には、約400年近くかかっている。差別は、あまりにも理不尽なものであり、絶対にしては



いけない。皆さん、差別を絶対にしないようには、まず歴史を知ることが第一歩になると思っている。皆さん普段から見ているものや聞いているもの、使っているものからも、学ぶべきことはたくさんあるだろう。情報化社会になり、すぐにでも色々な情報を得ることができ。皆さん自身の身近なものの歴史について少し調べてみて欲しい。きっと皆さん的人生に影響を与えるものになるのではなかろうか。

### 【保護者の声】 文章を読んだPTA人権委員の方の感想です。

3年生は人権参観日の時間に、「小春日和」という教材を使い、被差別部落出身者の主人公と、その恋人との関係を通して差別や偏見のない社会の実現や困難を乗り越える強い意志といった道徳的価値について考えました。私自身、普段の生活の中であまり意識することがなく、一緒に授業を聞いて、改めて、差別についての正しい知識や身近なところから差別をなくしていく努力、学んだことを日常生活の中でどう生かしていくのかを考えさせられました。(3年生保護者)

### 【人権委員の声】

私はHIPHOPについて詳しいことを知らなかったので、これを機に調べてみると、かつてHIPHOPは反抗の文化であり、社会に対する意思表示の手段でもあったことを知りました。人々が競い方をダンスや歌に変えて表現し、自由、平等、平和、ハーモニーというHIPHOPの精神が確立されたことを知りました。(3年生 人権委員)

HIPHOPはただの音楽ではなく、黒人差別の歴史や現実から生まれた文化だということを初めて知りました。差別や貧困の中で怒りを暴力ではなく音楽で表現したことはとても意味のあることだと思いました。普段何気なく聞いている音楽にも深い歴史があると知って、背景を知ることが大切だと思いました。差別をなくすためには、過去のことを知って、同じことを繰り返さない意識を持つことが重要だと思いました。(5年生 人権委員)

### 人権教育相談課より

11/14(金)に行われた人権集会の6年生の感想文を紹介します

○私が、差別をされた人に対して抱いた「かわいそう」という同情の気持ちが差別に繋がっていて、この同情が差別が無くならない原因だと知り、今日、人権について初めて反省した。自分には関係のないことだと心のどこかで思っていたと気づくことができ、差別についてもっと正しい知識を蓄えることが大切だなと思った。6年間人権・同和教育で部落差別について学ぶことができたおかげで考え方大きく変わった。これまで学んできたことを意味のあるものにするために、周りを巻き込みながら行動していきたい。

○人々の間違った思い込みが大きくなると、国全体での人権侵害に発展してしまうことがあるということを、ハンセン病療養施設の話を聞いて本当に恐ろしく感じた。感染症だけでなく、様々な人権問題に対しても、まずはきちんと知ることが一番必要だと思った。